



東北防衛局広報紙  
 (東北6県の防衛に関する情報誌)

# 東北の **かなめ**

(第2号)

平成20年1月31日発行

## 特集 米空軍三沢基地 (一年を振り返って)

- ・局長の年頭挨拶
- ・新ポストの紹介
- ・防衛問題セミナーの開催
- ・大湊地方隊公務員宿舎の完成
- ・感謝状の贈呈及び永年勤続者表彰
- ・局長等のYS-53研修
- ・「東北の寄り道」白水阿弥陀堂
- ・局HPに「主な業務紹介ページ」

8 7 6 6 5 5 4 4 2  
 ~ 3

### (大崎八幡宮の松焚祭)

大崎八幡宮の松焚祭は、正月飾りや古神札等を焼納する正月送りの行事。



防衛省東北防衛局編集委員会編集発行  
 宮城県仙台市宮城野区五輪1丁目3-15  
 Tel 022-297-8208

ホームページ <http://www.mod.go.jp/rdb/tohoku/>

# 特集 .. 米空軍三沢基地 (一年を振り返って)

今回は、米空軍三沢基地の報道部長(テレサ・サリバン大尉)が、この一年を振り返って、米軍の主な活動や軍人・家族と三沢市の市民等とのふれあいを、ご自分の体験も踏まえて紹介します。

昨年、三沢基地のすべてのメンバーには、感謝すべき多くのことがありました。2007年は第35戦闘航空団にとり成功と成果で満たされた年であり、また三沢市の偉大なる隣人そして友人との関係が深まった期間でもありません。

1月、サム・アンジェレラ准将からT・J・オショーンネシ大佐への交代により、我々に当団の新司令官がもたらされました。その後、間もなく、オショーンネシ大佐は、我々の戦闘集団としての戦術技能をテストするための非常に精力的な「作戦即応態勢検閲」を通じ、第35戦闘航空団のすべてのメンバーを指揮しました。我々はその課題にうまく対応し、「優秀」の評価を勝ち取ったのです。

そして当団は、1,300人の航空兵がテロに対する世界規模の戦争を支援するために派遣された時、その戦術

技能を実際に試されることとなりました。ほんの数例を挙げれば、第13及び第14戦闘飛行隊、憲兵隊、施設隊、整備隊が、2月から10月までの間、イラク自由作戦・不朽の自由作戦において、三沢基地そして合衆国を代表しました。

我々のすべての成功を通して、当団の航空兵、陸兵、水兵は、彼らの家族そして友人による献身と支援なくしてそれらを成し遂げることはできなかつたであろうと認識しています。派遣により後に残された者たちは、手綱を引き締め、家庭生活がうまくいくよう維持してきたのです。

三沢基地では、「ジャパNDER」(4月7日)と「アメリカンデー」(6月2日)において日本の友人達と共に楽しく過ごすことができました。また、楽しみに満ちた航空ショー(9月2日)も開催することができました。彼らは

また、正面ゲート脇の「アメリカ村」でもひと時を過ごしました。そして基地の航空兵にとつての最大の盛り上がりは昨年が空軍60周年記念であり、私達はこの記念すべき年を日本の友人と過ごしました。このような出来事は、三沢基地の軍人関係者及び家族たちの記憶の中に永遠に留められるでしょう。

今、長く困難な仕事を終え、三沢基地のすべてのメンバーは彼らの愛する家族達との貴重な時間を過ごしています。この年末年始休暇は、贈り物のやりとり、パーティー、聖歌の唱歌、祝宴会やその他活動の時間となります。またこの休暇は、スキー、スノーボード、観光、スノーシューイング(訳注:「かんじき」様の履物での散策)の機会をもたらし、我が航空兵、陸兵、水兵はこのような活動を最大限に楽しんでいきます。

個人的には、昨年はとても実り多いものでした。私は1月、司令官交代式での司会を務めることができたところ、これはやりがいのある仕事でした。また、報道部長として、「作戦即応態勢検閲」においてスタッフを指揮しました。私のスタッフは「傑出したチーム」として賞を勝ち取りました。その数週間後、私は、第379航空遠征航空団の報道部長を務めるため中東に展開することとなりました。派遣中、サウジ

個人的には、昨年はとても実り多いものでした。私は1月、司令官交代式での司会を務めることができたところ、これはやりがいのある仕事でした。また、報道部長として、「作戦即応態勢検閲」においてスタッフを指揮しました。私のスタッフは「傑出したチーム」として賞を勝ち取りました。その数週間後、私は、第379航空遠征航空団の報道部長を務めるため中東に展開することとなりました。派遣中、サウジ



中東に展開中、机に向かって勤務するサリバン大尉



中東で憲兵隊の任務を取材中

アラビア、アフガニスタン、イラク、そしてレバノンに前方展開しました。戦闘作戦の一翼を担い、これに貢献する機会を得ることは、心が躍るものでありました。9月下旬に三沢に戻り、その数週間後、在イラク・バラッド空軍基地に派遣されていた私の夫も、無事に帰ってきました。一年間はあっという間でしたが、私のように、三沢基地のすべてのメンバーは、冒険的なそして任務に係る自分自身の「物語」を得ることができたのです。

昨年は感動的な年でした。そして三沢基地のメンバー達は、多忙な2008年に備え、休暇の後に心をリフレッシュさせ英気を養う機会を得ることができました。いつもどおり、三沢基地のすべてのメンバーは、三沢コミュニティの方々と分かち合う堅固な関係、そして日本文化を学べる機会に感謝しています。三沢基地のすべてのメンバーを代表し、2008年が健康で繁栄の年となりますよう、お祈り致します！



ラスベガスで行われた授賞式(昨年12月)、夫のラリー・サリバン大尉と共に参加



アフガニスタンのカンダハル国際空港、ヘラント州に空中投下する航空機で



戦闘で手足を失った英国人のためのハーフマラソンの準備をするサリバン大尉とスタッフ

### 東北の自衛隊の広報行事の紹介

自衛隊(東北管内)が今後予定している広報行事等は、次のとおりです。是非、見に来てください。

開催日	イベント名	開催場所	問い合わせ先
平成20年2月23日(土)	第6師団音楽まつり	天童市民文化センター(予定)	第6師団広報室 0237-48-1151(内線:254)
平成20年3月1日(土)	第44回東北方面音楽隊定期演奏会	イズミティ21	東北方面総監部広報室 022-231-1111(内線:2668)
平成20年3月7日(金)	第25回自衛隊郡山音楽祭	郡山市民文化センター	郡山駐屯地広報班 024-951-0225(内線:284)
平成20年3月15日(土)	第9師団定期演奏会	青森市市民文化会館	第9師団広報室 017-781-0161(内線:259)
平成20年4月13日(日) 予定	郡山駐屯地創立55周年記念行事	郡山駐屯地	郡山駐屯地広報班 024-951-0225(内線:284)
平成20年4月13日(日) 予定	船岡駐屯地創立49周年・第2施設団創隊47周年記念行事	船岡駐屯地	船岡駐屯地司令職務室 0224-55-2301(内線:211)
平成20年4月中旬	船岡駐屯地さくら祭り	船岡駐屯地	同上
平成20年4月20日(日) 予定	霞目駐屯地創立51周年記念行事	霞目駐屯地	霞目駐屯地広報室 022-286-3101(内線:301,363)
平成20年4月26日(土)	多賀城駐屯地創立54周年記念行事	多賀城駐屯地	多賀城駐屯地広報室 022-365-2121(内線:208)
平成20年4月27日(日) 予定	八戸駐屯地創立52周年記念行事	八戸駐屯地	八戸駐屯地広報班 0178-28-3111(内線:3804)
平成20年4月27日(日) 予定	弘前駐屯地創立40周年記念行事	弘前駐屯地	弘前駐屯地広報班 0172-87-2111(内線:206)

※事前の申し込み、入場整理券等が必要なイベントもありますので、お出かけの前にお問い合わせ先にご確認ください。

## 局長の年頭挨拶

東北防衛局長

酒井 隆



新年明けましておめでとうございます。職員の皆様におかれましては、それぞれのご希望に満ちた新年を健やかに迎えのこととお慶び申し上げます。

さて、当局における昨年の振り返りてみますと、車力通信所におけるXバンドレーダーの本格運用、嘉手納飛行場からの移転訓練、三沢飛行場へのJTAGSの配備、防衛問題セミナーの開催、王城寺原演習場における米海兵隊実弾射撃訓練の中止に係る問題等、当局にとって重要な出来事がありました。

た。とりわけ、9月に防衛施設庁が廃止され、防衛省に統合されたことにより、仙台防衛施設局は45年に及ぶ歴史に幕を閉じ、防衛省の地方支分部局「東北防衛局」として生まれ変わるといって、まさに大きな節目を迎えた年でありました。組織の改編により、当局は、施設行政に加え、東北地方における防衛行政全般の拠点として、これまで以上に地方との協力関係の強化が求められるものと考えます。

こうしたなかで、前防衛事務次官の汚職事件を始めとする防衛省における様々な不祥事に対する国民の目は非常に厳しいものがあり、失われた信頼を回復し、国民の負託に応えるためには一層の努力が必要と考えます。そのためには、職員一人一人が誇りと責任を持ち、厳正かつ公平な職務の遂行に努め、全職員が一丸となつて、この難局を乗り切らねばなりません。

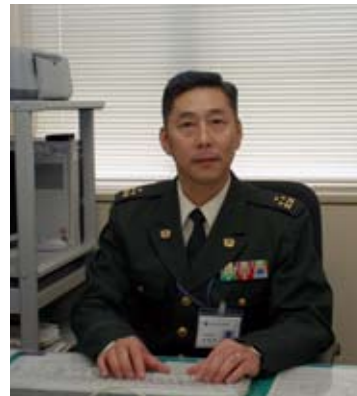
その上で、当局に与えられた業務を推進するにあたっては、言うまでもありませんが、情報の共有を図りながら、風通しの良い職場環境づくり、効率的な業務処理に努めること、そして何よりも皆様の健康が第一と考えます。

本年が皆様にとりまして、幸多い年となりますことを心からお祈り申し上げます。年頭の挨拶といたします。

## 新ポストの紹介

防衛補佐官

堀部 勇二



明けましておめでとうございます。

防衛補佐官を拜命した堀部です。防衛補佐官は、昨年9月1日の東北防衛局の開局に伴い新設されたポストで、「自衛官が部隊運用等の見地から局長を補佐」することを役割としています。

私は、初めて東北地域に勤務することもあり、着任後の約2ヶ月間は局管内の陸・海・空各自衛隊及び米軍を訪問し、各部隊等の現状等や防衛施設の整備状況を把握するとともに、東北防衛局の業務内容の理解に努めてきたところです。また、現在、局長の特命を受けて、局中堅職員を対象に自衛隊等に関する勉強会を開催するなど、自衛隊と東北防衛局の相互理解の一助となるよう努めています。

これからも職務の幅と深さを増して、東北防衛局の内外から頼られる補佐官を目指して頑張ります。

会計監査官

遠藤 宗秀

明けましておめでとうございます。会計監査官は、昨年9月1日の組織改編に伴い、地方防衛局が行う会計監査に関する事務については地方防衛局長が統括することとなり、その会計監査事務を行う職員として各地方防衛局に新たに設置されたポストです。

会計監査は、防衛大臣から示される当該年度の重点監査項目を柱に、年度監査計画を立案し、基本的な会計経理と共に監査を実施致します。

厳しい経済財政状況の下、今後とも合規性・経済性・有効性を考慮しつつ、適正且つ効率的な業務の執行が行えるよう努めて参ります。



木村太郎衆議院議員挨拶（青森会場）



### 防衛問題セミナーの開催

東北防衛局では、昨年9月から12月にかけて、テロ対策特別措置法に基づく海上自衛隊の活動の意義や内容を広く国民に理解してもらうため、「防衛問題セミナー」を仙台市、青森市、福島市及び山形市の4カ所で開催しました。

本セミナーでは、防衛省担当課長から海上自衛隊による補給活動の意義、内容等の説明のほ

か、実際に活動に従事した海上自衛官による講話等が行われ、4回の開催で一般市民を始め地方公共団体関係者、国会議員関係者など合計約660人が聴講に訪れました。

参加者に任意で行ったアンケートでは、約8割の方々から、セミナーの内容を「よく理解できた」又は「理解できた」との回答をいただきました。今回のセミナーを通じて、テロ対策特別措置法に基づく自衛隊の活動等に対する理解が深められたものと考えています。

### 大湊地方隊公務員宿舎（単身者用）が完成

海上自衛隊大湊地方隊は、津軽海峡と宗谷海峡を含む青森県以北の周辺海域の防衛・警備等を任務としています。この大湊地方隊で勤務する多くの自衛官の中でやむを得ず単身赴任となっている自衛官の方々（特に幹部自衛官が多い）にも十分に任務を遂行し得る環境を整えるため、既存施設の老朽化に伴い新たに単身者用公務員宿舎が建設されました。

この施設は、鉄筋コンクリート造5階建て1棟、延べ面積約2,000㎡、全60戸の宿舎で、



室内は1戸当たり6畳（フローリング）一間の1Kタイプ、生活に支障のないようユニットバスとキッチンなどの設備を整えています。平成18年4月に着工し、平成19年11月末に完成したところです。

家族と遠く離れ、厳しく緊張感のある任務に従事している自衛官の方々にとって、いくらかでも不便が解消され、ゆっくり休養できる生活の場となることを願っています。



感謝状の贈呈

北村和哉氏に  
東北防衛局長感謝状贈呈

これまで永年にわたり三沢飛行場の安定的な使用に協力された北村氏の功績に対し、平成19年11月1日付けで東北防衛局長感謝状が送られることになり、三沢防衛事務所において、石塚総務部長から贈呈されました。



永年勤続者表彰

自衛隊記念日に当たり、防衛省永年勤続者表彰が、平成19年11月1日、二階大会議室において行われました。

式典では、被表彰者に対し、表彰状及び記念品が授与され、酒井局長からお祝いの言葉が贈られました。



◆防衛省永年勤続者表彰  
(二十五年以上勤続者)

総務部 会 計 課 相原 光知  
企画部 周辺環境整備課 駒ヶ嶺孝志  
調達部 調達計画課 金 齊  
郡山防衛事務所 水本 伸

局長等のYS-53研修

平成19年12月12日、酒井東北防衛局長は、12月8日から16日の間、仙台駐屯地において実施された平成19年度日米共同方面隊指揮所演習「YS(やまさくら)53」(陸自約3,500人、米軍約1,500人が参加)を研修しました。

当日、朝10時に到着した局長は、最初に東北方面総監部を訪れて宗像総監に挨拶した後、これまでのYS演習の歴史、この一年間の演習準備、演習の全般構成等についてブリーフィングを受け、統裁部地域と演習部隊指揮所地域を案内され、東北方面隊や米陸軍第1軍団等が行う指揮・幕僚活動と統裁状況を研修しました。研修後、昼食を挟み、山本東北方面幕僚長と懇談等を行った後、13時に駐屯地を後にしました。

また、当該研修においては、部隊側の案内者による説明を補足的に解説するなど局長を補佐するため、過去に6回のYS演習の参加経験のある東北防衛局防衛補佐官堀部2等陸佐が随行しました。

なお、東北防衛局のその他の職員についても、当該YS演習の期間を3日間に分かれて、延べ29名が研修に参加しました。





東北の寄り道

白水阿弥陀堂

福島県浜通南部、いわき市内郷白水町の菩提山無量寿院願成寺の一角に国宝「白水阿弥陀堂」がある。日々寒さが身にしみる師走初旬にも拘わらず、当地は未だ紅葉に彩られていた。

歴史を辿ると、平安時代末期、奥州平泉の藤原清衡の娘であり、海道の地（現在の福島県浜通り南部）を治めていた岩城則道氏夫人である徳姫が、ここ白水に霊地を得て願成寺を建立。夫岩城則道の没後の永暦元年（1160年）、亡夫の菩提を弔うため、願成寺の一角に創立したのが白水阿弥陀堂である。

御堂は、方三間の単層宝形造で屋根はこけら葺き。内部には国指定重要文化財の阿弥陀如来像を中心に、両脇に観世音菩薩、勢至菩薩像、持国天王、多聞天王の五体の像が安置されている。また、御堂は東西南の三方を池に囲まれ、正面に当たる南から中ノ島の朱塗りの橋を渡り、御堂に至る参拝道が設けられている。このように阿弥陀堂を中心とした寺院様式は、平安時代末期に盛んだった浄土式庭園の様を呈しており、平泉建築の流れを汲んでいる。

その徳姫の父とされる藤原清衡は、東北地方の戦乱（前九年の役、後三年の役）の中を生き延び、戦役の勝者として奥州奥六郡を支配下に治めた後、奥州の戦乱で亡くなった多くの人の霊を弔い、争いのない仏国土への願いを込め、奥州平泉に中尊寺を建立、奥州藤原四代約100年続く栄華の礎を築いた武将である。

ところで、前九年の役後、奥州を治めた清原武貞の後を嗣いだ真衡に子がなかったため、後に徳姫の夫となる岩城則道から養子を迎えた。しかし、そのことが一つの契機として清原家の内紛、後三年の役が起こる。この後三年の役で、清衡の妻子一族が殺されたが清衡自身は辛うじて生き延びた。後世、その清衡の娘、徳姫が岩城則道に嫁ぎ、夫岩城の菩提を弔う阿弥陀堂を建立したのは、まさに戦乱の世を生きた父清衡と同じように、争いのない仏国土への願いによるものではなかったかと思いを巡らすのである。

ここ白水の地名は、徳姫の故郷である奥州平泉の「泉」を分字し、「白水」と名付けたとも伝えられている。また、この地方を岩城平と称していた。岩城平と白水を泉として合わせると、岩城の平泉となる。まか不思議な話である。

(企画部施設取得課職員からの寄稿)





東北防衛局HPに「主な業務の紹介ページ」を開設



平成19年9月1日に開設しました東北防衛局ホームページにおいて、長らく工事中となっておりました業務紹介ページを開設させていただきましたので、お知らせします。

業務紹介ページでは、主な業務内容を写真やグラフィックも加えて分かりやすく説明するとともに、課等の主な事務内容から連絡先が分かるようにしております。東北防衛局へのご照会やご連絡などの際には、是非、ご参考にいただければ幸いです。

今後とも、東北防衛局ホームページの運用にあたりましては、「分かりやすく、魅力ある、情報を正しく早く」をコンセプトに情報の提供に努めて参ります。

(東北防衛局HPトップページ)



クリック



(「主な業務」の目次)



ホームページ

<http://www.mod.go.jp/rdb/tohoku/>

(業務内容の説明)



(課等の事務内容と連絡先)

課等の主な事務内容と連絡先

課等名	主な事務内容	連絡先
総務課	公文書等の管理、電報の受発、倉庫、機庫及び官舎の企画・工事、事務用車、燃料の供給、燃料管理、情報管理、業務の計画、行先の調査、情報立案、個人情報、人事、給与、福利厚生、典拠	022-297-8209
会計課	会計事務、物品の購入・管理、設備等の修繕及び報告の管理、予算及び決算	022-297-8210
契約管理課	工事等請負の業者登録、工事等請負の契約	022-297-8296
総務官	広報、報道	022-297-8208
防務対策官	在日米軍活動者の防務管理	022-297-8295

編集後記

明けましておめでとうございます。

さて、「東北のかなめ」第2号の発行に当たっては、「新年」を一つのテーマとして、表紙の写真に「大崎八幡宮の松焚祭」、局長の年頭挨拶、特集・米空軍三沢基地の報道部長の「一年を振り返って」を掲載しました。また、新ポストの紹介、防衛問題セミナーの開催及び施設の完成等に関する事、そして、東北防衛局ホームページに開設した「主な業務の紹介ページ」についてお知らせしました。皆様のお役に立てることを願っています。

編集委員会としても、新たな年となり心新たに、更に充実した親しみのある広報を目指し、鋭意、努めてまいります。



(仙台塩釜港の日の出)